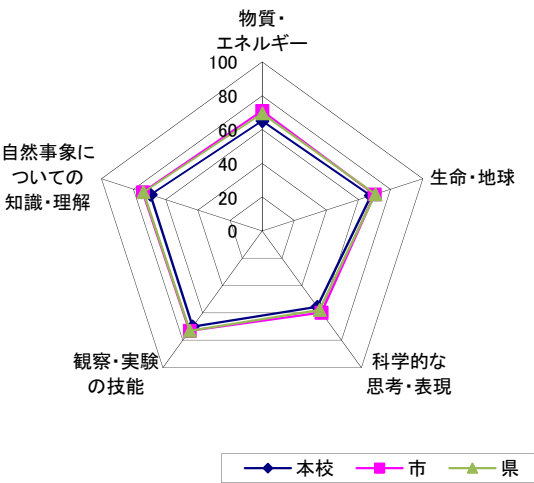


宇都宮市立清原東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.1	71.1	69.6
	生命・地球	67.7	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	55.5	59.8	57.8
	観察・実験の技能	70.0	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	69.5	74.3	74.0



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●平均正答率は、市平均を下回っている。 ○物は形を変えても重さが変わらないことへの理解、風やゴムの働きの実験で、車を目的とする距離まで移動させるのに必要なゴムの伸びを推測する問題、反射した日光を目的とする位置にあてるための鏡の向きの変え方、導線の安全なつなぎ方の正答率が市平均と同等以上である。 ●虫眼鏡で集めた光の明るさや温かさの違い、磁石の性質全般、回路についての問題、ソケットを使わない場合の豆電球の明かりのつけ方、電気を通す物と通さない物への理解の正答率が市平均よりも低い。	・3学年の学習内容を振り返るとともに、学習内容の対象となる実験の動画視聴、グラフの読み取り方等を通して、現象の理解を深める。 ・実験の目的をしっかりと把握させ、柔軟な発想で予測、推測を考えた上で実験を行うようにする。また、実験や観察の結果から考える活動をより多く設ける。
生命・地球	●平均正答率は、市平均を下回っている。 ○モンシロチョウの変態の仕方、昆虫の生活場所、目的に応じた観察カードの書き方、太陽の観察をするときに使用する道具についての正答率は、市平均と同等である。 ●植物の育ち方の順序、虫眼鏡の正しい使い方、1日の太陽の動きの正答率が市平均よりも低い。	・観察や実験の前に、ねらいを確認したり、実験後に考察したり、グループで観察結果や実験結果を共有したりする時間を十分に確保することにより定着を図る。 ・観察や実験の方法や結果、それに対する自分の考えを図、表、絵、言語といった様々な表現方法で説明したりまとめたりする活動を、より多く設定する。